



日本ユネスコ国内委員会 活動報告

2019年度 第1号

(トップ写真) 桜咲く日本庭園から望むユネスコ本部庁舎

はじめに

本報告は、日本ユネスコ国内委員会の国内外における最近の主な活動についてとりまとめ、国内委員ほか皆様へお知らせすることを目的として作成いたしました。

日本ユネスコ国内委員会ウェブサイト (<http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>) 及び facebook (<https://www.facebook.com/jpnatcom>) からご覧いただけます。

令和元年5月
日本ユネスコ国内委員会事務局
(文部科学省国際統括官付)

目次

〔1〕 ユネスコ本部・地域事務所等の動きと我が国の関わり

- ① 国際海洋データ情報交換に関する委員会 (IODE) 総会及び科学カンファレンスの開催
- ② 第6回 SDG-教育 2030 ステアリング・コミッティの開催
- ③ ユネスコ生態地球科学部長の来日
- ④ ユネスコ「ESDに係るリーダーシップシンポジウム」の開催
- ⑤ ロレアル-ユネスコ女性科学賞、同国際新人賞の受賞～日本人研究者2名の受賞～
- ⑥ 東南アジア生物圏保存地域ネットワーク (SeaBRnet) 会合の開催
- ⑦ 政府間海洋学委員会西太平洋小委員会 (IOC/WESTPAC) 総会の開催
- ⑧ 第206回ユネスコ執行委員会の開催

〔2〕 我が国におけるユネスコ活動について

- ① 最近の国内委員会会議 開催報告
- ② ユネスコ世界ジオパークの再認定
- ③ ユネスコ/日本 ESD 賞国内公募の結果
- ④ ユネスコ創造都市ネットワーク 国内公募の実施
- ⑤ 「百舌鳥・古市(もず・ふるいち)古墳群」に関する世界遺産委員会諮問機関による評価結果について

〔3〕 今後の予定、お知らせ

- ① 日本ユネスコ国内委員会会議の開催予定
- ② ユネスコ関係会議の開催予定
- ③ 第11回ユネスコスクール全国大会の開催
- ④ 文部科学省ユネスコ関係委託費、補助金の採択結果

〔1〕ユネスコ本部・地域事務所等の動きと我が国の関わり

※行事等を時系列に記載。

① 【科学】国際海洋データ情報交換に関する委員会（IODE）総会及び科学カンファレンスの開催

2月18～19日にIODE 25科学カンファレンスが、また20～22日に第25回IODE総会が海上保安庁のホストにより東京で開催されました。科学カンファレンスでは、大山文部科学省国際統括官（日本ユネスコ国内委員会事務総長）が開会挨拶を行った後、持続可能な開発のための国連海洋科学の10年への貢献、IODEに関する地域別の進捗、能力開発等について、発表や議論が行われました。総会では、各国のデータセンターの連携、予算計画等についての議論や、共同議長を選出などが行われました。

※IODEについて

1961年第1回政府間海洋学委員会（IOC）総会において、海洋データの交換促進による海洋の調査研究や利用開発等の発展を目的に設立された、IOCの常設プログラムの1つ。

（参考）IODEウェブサイト（英語）

https://www.iode.org/index.php?option=com_content&view=article&id=569&Itemid=100374

（参考）科学カンファレンスウェブサイト（英語）

https://www.iode.org/index.php?option=com_content&view=article&id=583&Itemid=100394

② 【教育】第6回SDG-教育2030ステアリング・コミッティ（SC）の開催

3月11日～12日に、第6回SDG-教育2030ステアリング・コミッティ（SC）がフランス・パリのユネスコ本部において開催されました。日本からは、吉田和浩教授（SC共同議長、広島大学）、文部科学省職員等が参加しました。本会合は、ユネスコ加盟国やパートナーが、SDG4（目標4：教育）及びSDGsの他の教育関連目標を達成するための組織的なサポートを提供することを目的として開催されるもので、今回の会合では、SCから2019年国連ハイレベル政治フォーラムへ提出予定のSDG4（教育）報告書案や、SCメンバー数の増加を始めとするSCの改正TOR（Terms of Reference）案についての議論等が行われました。



SCにて副議長を務める吉田和浩教授（右端）

③ 【科学】ユネスコ生態地球科学部長の来日

3月11～17日に、ミゲル・クリュゼナーゴット ユネスコ生態地球科学部長が、島根大学の地球環境災害軽減ユネスコチェア主催の地球環境災害軽減フィールドスクール開催式典に出席するために来日しました。来日中は、大山国際統括官への表敬訪問のほか、国内のユネスコエコパーク、ユネスコ世界ジオパーク関係者との懇談の場が設けられ、各プログラムにおける日本の取組状況や課題等について意見交換を行いました。

④ 【教育】ユネスコ「ESDに係るリーダーシップシンポジウム」の開催

3月13日～15日に、ESDに係るリーダーシップシンポジウムが、文部科学省からの信託基金による支援を受けて、ユネスコ本部の主催で、島根県大田市大森町で開催されました。ユネスコでは、ESDを各国の政策・戦略に反映させていくため、2019年～2020年に、教育分野におけるハイレベル政策立案者を対象に、世界各地域の五か所でシンポジウムの開催を予定しており、その第1回目となる今回はアジアの一部地域を対象にしたもので、日本からは、小林洋介文部科学省国際戦略企画官（当時）が出席し挨拶を行ったほか、各国におけるESDの推進施策等について、情報共有・意見交換を行いました。



©UNESCO

シンポジウム参加者の皆様

⑤ 【科学】ロレアルーユネスコ女性科学賞、同国際新人賞の受賞～日本人研究者2名の受賞～

3月14日、フランス・パリのユネスコ本部において、科学分野で世界的な成果をあげた女性科学者等を表彰するロレアルーユネスコ女性科学賞の授賞式が開催され、日本からロレアルーユネスコ女性科学賞を受賞した川合眞紀自然科学研究機構分子科学研究所長／日本化学会会長と、同国際新人賞を受賞した野元美佳名古屋大学遺伝子実験施設助教が出席しました。我が国からの受賞者は、女性科学賞は5年ぶり6人目、国際新人賞は2年連続4人目となります。

（参考）ユネスコ日本政府代表部ウェブサイト

https://www.unesco.emb-japan.go.jp/itpr_ja/PrizeFWIS2019.html

（参考）UNESCO ウェブサイト（英語）

<https://en.unesco.org/news/five-exceptional-women-scientists-receive-loreal-unesco-women-science-awards>

⑥ 【科学】東南アジア生物圏保存地域ネットワーク（SeaBRnet）会合の開催

3月26日～28日に、第12回SeaBRnet会合がフィリピン・レガスピで開催されました。日本からは、金沢大学環日本海域環境研究センター連携研究員の飯田義彦氏とイオン環境財団職員が参加しました。

本会合では、ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）の持続的な管理運営のためのネットワーク強化をテーマに、各国の生物圏保存地域の現状説明、日本信託基金の支援により進められた生物圏保存地域の今後の効果的な管理運営に資する調査研究の共有等が行われました。

（参考）UNESCO ウェブサイト（英語）

http://www.unesco.org/new/en/jakarta/about-this-office/single-view/news/the_philippines_albay_biosphere_reserve_successfully_host/

⑦ 【科学】政府間海洋学委員会西太平洋地域小委員会（IOC/WESTPAC）総会の開催

4月2日～5日に、第12回IOC/WESTPAC総会がフィリピン・マニラで開催されました。日本からは、道田IOC分科会主査、安藤IOC分科会委員（WESTPAC副議長）や文部科学省職員等が参加しました。

総会では、「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」やSDGs14（海洋）への貢献、サンゴ礁の保護及び回復に関する事業などについて話し合われました。また、安藤委員がWESTPAC副議長に再選しました。

（参考）UNESCO ウェブサイト（英語） <http://iocwestpac.org/calendar/904.html>

⑧ 【全分野】第206回ユネスコ執行委員会の開催

4月3日から17日にかけて、フランス・パリのユネスコ本部において、第206回ユネスコ執行委員会が開催され、このうち4月11日から13日に行われた事業委員会等に大山国際統括官が出席しました。

今回の執行委員会では、事業委員会の「SDG4—教育2030」セッションにおいて、「ESDに関するグローバルアクション・プログラム（2015-2019）」（GAP）の後継枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGsの達成に向けて（ESD for 2030）」の実施の方向性に関する提案が決議されました。

同セッションでは、参加国からESDを重視し前向きに取り組むとの発言もあり、また、ユネスコ/日本ESD賞を評価し我が国に対し謝意を示す国もありました。

「世界の記憶」のセッションにおいては、制度の包括的見直しに関する決議が採択されました。

このほか、体育教育の質に関するパートナーシップの強化、IHP規程改定案の決議、新規ユネスコジオパーク案件の承認、オープンサイエンスに関する勧告の議論などがありました。

また、大山国際統括官は、執行委員会期間中にシン・クー事務局長らユネスコ関係者と会談しました。会談では、大山国際統括官より、教育や自然科学、記録遺産の保護・保全の促進などにおいてユネスコとの協力を一層進めて行くことが述べられ、先方からは、教育・科学・文化の各分野の協力における我が国の貢献に対し、感謝と期待が表明されました。

※ユネスコ執行委員会について

ユネスコの最高意思決定機関であるユネスコ総会の下部機関であり、選挙で選ばれた58か国の参加により、通常年2回開催される。

〔2〕我が国におけるユネスコ活動について

① 最近の国内委員会会議 開催報告

2月25日に第134回自然科学小委員会懇談会及び第119回人文・社会科学合同小委員会、同じく2月25日に第137回文化活動小委員会、3月20日に第43回MAB計画分科会が開催されました。各小委員会では、前回の小委員会以降の活動の報告や、それぞれの小委員会が所掌する分野に関するユネスコ活動の推進に向け、多様なステークホルダーとの連携や広報活動の在り方等について意見交換を行いました。MAB計画分科会では、我が国のユネスコエコパークの推進方策をテーマに、日本のユネスコエコパークの特徴や強み、今後望まれる取組等について意見交換を行いました。

(参考) 文部科学省ウェブサイト <http://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/1308396.htm>

② ユネスコ世界ジオパークの再認定

ユネスコ世界ジオパークについては、認定後4年に一度、再認定審査を受け、ユネスコ世界ジオパークとしての活動が十分に行われているかどうか審査が行われます。2018年度は、阿蘇と山陰海岸の2地域の再認定審査の年であり、2018年8月にユネスコによる現地審査が行われました。これらの審査結果が、2019年2月にユネスコ事務局から公表され、両地域とも再認定されました。

③ ユネスコ／日本ESD賞国内公募の結果

我が国の財政支援によりユネスコが実施する「ユネスコ／日本ESD賞」の第5回国内公募を2月28日(木)締切で行い、国内審査の結果、学校法人アジア学院農村指導者養成専門学校、福岡県大牟田市教育委員会、北九州ESD協議会の3件を日本からユネスコへ推薦することが決定しました。今後は、7月のユネスコが設置する国際審査会での審査を経て、9月末に受賞者が発表される予定です。その後、11月のユネスコ総会開催時期に合わせてユネスコ本部で表彰式が行われます。

(参考) 日本ユネスコ国内委員会ウェブサイト <http://www.mext.go.jp/unesco/004/1415535.htm>

④ ユネスコ創造都市ネットワーク 国内公募の実施

国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が実施するユネスコ創造都市ネットワーク(UNESCO Creative Cities Network)への新規加盟申請のための2019年公募の開始を受けて、我が国からユネスコへ推薦する申請案件を公募しました(5月8日締切)。公募結果は後日以下URLにてお知らせします。

(参考) 日本ユネスコ国内委員会ウェブサイトトップページ <http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

⑤ 「百舌鳥・古市(もず・ふるいち)古墳群」に関する世界遺産委員会諮問機関による評価結果について

我が国が世界文化遺産へ推薦を行っている「百舌鳥・古市古墳群」について、世界遺産委員会の諮問機関であるイコモスによる評価結果がユネスコ世界遺産センターから通知されました。評価結果は、世界遺産一覧表への「記載」が適当との勧告です。今後、第43回世界遺産委員会(令和元年6月30日～7月10日、於：アゼルバイジャン)において、イコモスの勧告を踏まえ、世界遺産一覧表への記載の可否が決定されます。

(参考) 文化庁ウェブサイト http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/1415820.html

〔3〕今後の予定、お知らせ

※会議予定は直近の5～7月の主要な会議に限る。

① 日本ユネスコ国内委員会会議の開催予定

6月頃 第69回政府間海洋学委員会（I O C）分科会

※後日日本ユネスコ国内委員会HPに開催案内を掲載予定です。

② ユネスコ関係会議の開催予定

5月16日～18日 AIと教育に関する国際会議（中国・北京）

6月6日～7日 第11回政府間生命倫理委員会（I G B C）会合（ユネスコ本部）

6月17日～21日 第31回人間と生物圏（M A B）計画国際調整理事会（ユネスコ本部）

6月25日～7月4日 第52回政府間海洋学委員会（I O C）執行理事会及び第30回I O C総会（ユネスコ本部）

7月2日～3日 ESD及びGCEDに係るユネスコ2019フォーラム（ベトナム・ハノイ）

7月4日～5日 2019年GAPパートナーネットワーク会議（ベトナム・ハノイ）

③ 第11回ユネスコスクール全国大会（ESD研究大会）の開催

11月30日（土）に、第11回ユネスコスクール全国大会（ESD研究大会）（文部科学省・日本ユネスコ国内委員会主催）を広島県福山市で開催します。ESDの推進拠点であるユネスコスクールを軸に、ESDに関心のある方が一堂に会し、更なる発展を目指し実践交流などを行います。後日以下URLにて、参加受付を開始します。

（参考）ユネスコスクール全国大会ウェブページ <http://www.jp-esd.org/conference.html>

④ 文部科学省ユネスコ関係委託費、補助金の採択結果

（1）政府開発援助ユネスコ活動費補助金

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する民間のユネスコ活動の振興に資する事業を行う団体に対して、当該事業を実施するための費用を補助します。

2019年度は計21団体の応募があり、8団体を採択しました。詳細は後日以下URLにてお知らせします。

（参考）日本ユネスコ国内委員会ウェブサイトトップページ

<http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

（2）SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

国内の教育現場における持続可能な開発目標（SDGs）の達成の担い手を育む多様な教育活動（ESD）の実施・支援に寄与することを目的とし、2019年度に新設されました。

2019年度は計45団体の応募があり、14団体を採択しました。詳細はHPをご覧ください。

（参考）日本ユネスコ国内委員会ウェブサイト

<http://www.mext.go.jp/unesco/018/1416144.htm>

(3) 日本／ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコの理念及び目的の実現に向けて、国内のユネスコ活動関係の機関と協力し、我が国のユネスコ活動の重要事業の普及・振興を図ります。

2019年度は計12団体の応募があり、9団体を採択しました。詳細はHPをご覧ください。

(参考) 日本ユネスコ国内委員会ウェブサイト

<http://www.mext.go.jp/unesco/015/1416103.htm>

(令和元年5月17日発行)

日本ユネスコ国内委員会事務局（文部科学省国際統括官付）

担当：ユネスコ振興推進係 田村、村上、斎藤

電話：03-5253-4111（代表）

FAX：03-6734-3679 Email: jpnatcom@mext.go.jp